

# 令和7年1月6日 年頭記者会見

## 次 第

1. 市長年頭所感
2. その他

日時：令和7年1月6日（月） 14：00より

場所：追手町第二庁舎 1階 大会議室

## 年 頭 所 感

市民の皆様におかれましては、健やかに新春をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃から市政にお寄せいただいておりますご支援、ご高配に対しまして、厚く御礼申し上げます。

さて、去年は、まず観光の分野におきまして、本市のシンボルである鶴ヶ城の魅力をこれまで以上に体感いただける様々なイベント等の実施や、会津地域や近隣都市との連携による広域観光の推進など、官民一体となって交流人口の拡大に努めてまいりました。こうした取組が奏功し、本市における観光需要はコロナ禍以前と同水準まで回復しており、特に、東山・芦ノ牧温泉への外国人観光客の宿泊数は、過去最高を記録した一昨年を大きく上回る水準まで増加するなど、明るい兆しが見えた1年でありました。

また、本市の喫緊かつ最重要課題である少子化・人口減少については、結婚支援や子育て環境の充実、移住・定住の推進、魅力的な働く場の創出など、様々な支援や対策を講じるとともに、企業における人手不足、農業における担い手不足などを踏まえ、地域を支える人材の確保にも努めてまいりました。とりわけ、4月には、児童福祉、及び母子保健機能の一体的な運営を行う「こども家庭センター」を設置し、多様な家庭環境に対する支援体制の充実・強化を図ったほか、首都圏における移住相談会の実施や、移住者に対する居住・就業支援など、様々な施策の実施により、令和5年度における本市への移住者数は過去最高を記録したところであります。

さらに、去年は、本市と青森県むつ市が姉妹都市の盟約を締結し、40周年を迎えた節目の年でもありました。幾多の苦難を乗り越え、歴史・文化・風土を築き上げてきた先人達を思うと、改めて尊敬の念を抱くとともに、本市の輝かしい未来に向け、今後、より一層の努力を重ねていく決意を新たにいたしました。

一方で、昨年5月には、「ごみ緊急事態」を宣言し、将来的に持続可能なごみ処理体制を維持するため、様々な機会を捉えた周知・啓発により市民や事業者の皆様と危機意識の共有を図るとともに、ごみの減量に向けた取組をともに進めてきたところであります。

さて、本年は、引き続き、市民の皆様の参画と協働のもと、活力ある会津若松市の創造に向けて、各施策を着実に推進してまいります。

はじめに、子育て支援につきましては、こどもクラブの慢性的な待機児童の解消を図るため、複数学区の子童を受け入れる「中央こどもクラブ」の、本年4月の開所に向けた準備を進めており、子育て環境のさらなる充実に向けた取組を進めるとともに、本市のこども、若

者が身体的・精神的・社会的に幸福な生活を送ることができる社会を実現していくため、令和7年度を始期とする「こども計画」を策定し、各施策に着実に取り組んでまいります。

学校教育においては、教育環境のさらなる向上はもとより、タブレット端末やデジタルドリルなど、ICT 機器の活用も含めた家庭学習の支援や、会津大学の学生などを中学校等に派遣する「あいづっこ数学サポートティーチャー」をはじめとする地域人材の活用により、子どもたちの確かな学力や多様な能力の向上を図るとともに、部活動の地域移行を推進することで、地域総ぐるみで子どもたちを育てる環境づくりを継続して進めていく考えであります。

さらに、「つながりづくりポイント事業」の対象拡大や、障がい者福祉施策の総合的な推進に加え、地域で支え合う地域共生社会の実現に向けた地域福祉活動の基盤づくりや相談支援体制の充実などにも力を注いでまいります。

観光面においては、本年10月からの10年間、入湯税を引き上げ、その財源を基に、東山・芦ノ牧温泉街の修景などを通して、さらなる温泉街の魅力の向上を図ってまいります。

また、本年4月からはじまる「ふくしまデスティネーションキャンペーン」のプレキャンペーンや「大阪・関西万博」を契機とした誘客を図るとともに、冬季間や平日などの閑散期に重点を置いた事業の展開により、観光需要の平準化に取り組んでまいります。

さらに、「会津フェスタ」や、「あいづ食の陣」の開催など、地域産業の振興や地場産品等の販路拡大に向けた取組も継続して実施してまいります。

本市の雇用拡大と定住人口の増加に重要な役割を担う企業誘致につきましては、新たな雇用の受け皿となる工業団地の整備に取り組むとともに、既存企業の支援などにより、雇用拡大や若者の地元定着を目指してまいります。

また、新たな人の流れと雇用の場の創出、若年層の地元定着による地域活力の維持発展を図るため、首都圏のICT企業の誘致の受け皿として整備した「スマートシティ AiCT」が、昨年、開所から5周年を迎えました。これまでの歩みを止めることなく、各種デジタルサービスのさらなる深化・発展を目指してまいります。

いよいよ、本年5月には、これまで整備を進めてまいりました市役所新庁舎の供用を開始いたします。情報や防災、市民サービス、及び市民の皆様の生活を支えるための中心施設であるとともに、賑わいと活気の創出に向けたまちの拠点となるよう、開庁に向け、着実に取組を進めてまいります。

県立病院跡地の利活用につきましては、子育て環境の充実や多世代交流の促進を図るための施設整備を進めてまいります。

また、市民の皆様や観光客の方々の交通の重要な拠点である会津若松駅前におきましては、

関係事業者と連携を図りながら、駅及び駅周辺施設の利用者などの安全性と利便性の向上に向け、基本計画を策定し、基盤の整備に向けて取り組んでまいります。

持続可能なごみ処理体制の構築と「ゼロカーボンシティ会津若松」の実現にあたっては、次の世代に住みよい環境を引き継いでいくため、市民の皆様にご協力いただきながら「家庭ごみ処理有料化」の導入を進めてまいるほか、猪苗代湖のラムサール条約湿地登録などにより、先人から引き継いだ貴重な地域資源を、より価値あるものとして未来へと引き継いでいくための取組を進めてまいります。

昨年は、令和9年度からの10年間を計画期間とする「新たな総合計画」の策定に着手いたしました。具体的には、計画策定のための方針を決定し、本市の持続可能な姿を考えるキックオフ講演会を皮切りに、市民の皆様の意識調査、各種アンケート調査などを実施し、本市が目指すべき将来の姿を真剣に考えていただき、皆様から多くの貴重なご意見をお寄せいただいたところであります。本計画は、市民の皆様の参画のもと、長期的展望に立って、本市が目指すべき将来の姿を示し、それを実現するための道筋を明らかにするため、総合的かつ計画的な市政運営の指針として策定するものであります。本年は、策定市民会議やタウンミーティング、地区別・世代別のワークショップの開催など、引き続き策定に向けた取組を着実に進めてまいります。

結びに、市民の皆様におかれましては、本市並びに会津地域の発展のため、より一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様のご健康とご多幸をご祈念申し上げます、新年のご挨拶といたします。